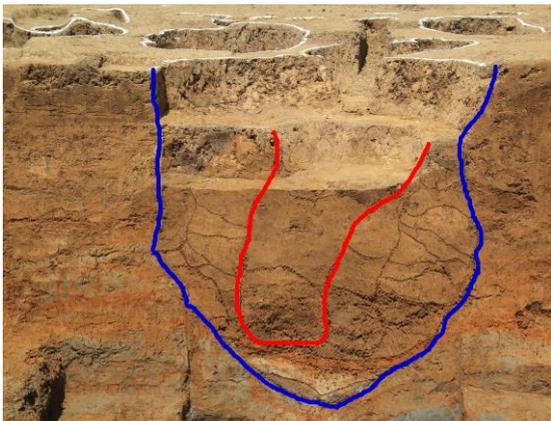


3 堂古遺跡

平成 26 年度からの継続調査で、27 年度は掘立柱建物 1 棟、井戸 23 基、土坑 12 基、溝 17 条、ピット 253 基などが見つかりました。13～15 世紀（鎌倉～室町時代）の集落です。

掘立柱建物は、大部分が調査区外に位置するため、詳細は不明でした。井戸は 26 年度調査分も合わせ、50 基以上見つかっています。その多くが素掘りで、井戸側を持たないものですが、中には土層の堆積から井戸側が設置されていたと予想できるものもあります。中から珠洲焼や箸などが出土する井戸も少ないながらあります。

遺物は、珠洲焼や青磁、白磁、砥石、木器などが出土しました。26 年度出土分も合わせて展示しています。



井戸側が設けられた井戸の断面
(赤線：井戸の内部、青線：井戸掘形)



「大」の刻字と刻文がある珠洲焼
(右端は砥石)

4 下割遺跡

中世～近世の集落で、井戸 20 基、土坑 26 基、溝 9 条、ピット 258 基が見つかりました。そのうち大量の炭が堆積した大型の土坑 3 基（3～6 m×4～8 m）からは、19 世紀後半の陶磁器とともに壁材と思われる遺物も出土しました。焼けた遺物も含まれており、火災で不要となったゴミなど、後片付けをした痕跡と考えています。



大型土坑の断面（断面に黒く見えるのが炭）



大型土坑からの出土遺物（下 3 点：壁材）